

Requested Patent: JP53086033A

Title: HERBICIDES ;

Abstracted Patent: JP53086033 ;

Publication Date: 1978-07-29 ;

Inventor(s): YUKINAGA HISAJIRO; others: 03 ;

Applicant(s): SHIONOGI ,CO LTD ;

Application Number: JP19770126454 19771020 ;

Priority Number(s): ;

IPC Classification: A01N9/12; A01N9/22 ;

Equivalents: JP1012488C, JP54044723B ;

ABSTRACT:

PURPOSE:To prepare herbicides from specific isooxazole derivs. as active constituents.

⑩日本国特許庁

⑪特許出願公開

公開特許公報

昭53—86033

⑫Int. Cl.²

識別記号

⑬日本分類

庁内整理番号

⑭公開 昭和53年(1978)7月29日

A 01 N 9/12

30 F 371.221

6516—49

発明の数 1

A 01 N 9/22

30 F 932

7349—49

審査請求 未請求

(全 12 頁)

⑮除草剤

⑯発明者 石塚一郎

⑰特 願 昭52—126454

大阪府豊能郡東能勢村大字吉川
15の542

⑱出 願 昭49(1974)9月4日

同

(手続補正書提出の日)

池田市畑町619の6

⑲発明者 行永寿二郎

⑳出 願 人 塩野義製薬株式会社

草津市草津2の4の41

大阪市東区道修町3丁目12番地

同 炭本信三郎

㉑代 理 人 弁理士 岩崎光隆

大阪市東住吉区湯里町2の126

明 細 書

1. 発明の名称

除草剤

2. 特許請求の範囲

一般式



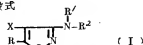
〔式中、Rは水素、アルキル基(シクロアルキル基を含む、以下同様)またはアリール基; R¹は水素またはアルキル基; R²はアシル基、 $-\text{CON}(\text{R}^3)\text{R}^4$ で表わされる基(ただし、R³およびR⁴は各々水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アラルキル基、アリール基、アルキルチオ基またはアルコキシ基を表すか、あるいはR³およびR⁴は互いに直接もしくはヘテロ原子を介して結合し、含窒素環を形成してもよい。)または $-\text{COYR}^5$ で表わされる基(ただし、R⁵はアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アラルキル基またはアリール基、Yは酸素または硫黄を表す。)Xは水素、アルキル基またはハロゲンを表す。ただし、

RとXとは互いに連結してアルキル基を形成してもよく、また、R、R¹、R²、R³、R⁴またはR⁵で表わされる各炭化水素基上にはアルキル基、アルコキシ基、水酸基、ニトロ基、シアノ基およびハロゲンから選ばれた1個以上の置換基が存在してもよい。〕

で表される化合物1種以上を有効成分として含有する除草剤。

3. 発明の詳細な説明

本発明は一般式



〔式中、Rは水素、アルキル基またはアリール基; R¹は水素またはアルキル基; R²はアシル基、 $-\text{CON}(\text{R}^3)\text{R}^4$ で表わされる基(ただし、R³およびR⁴は各々水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アラルキル基、アリール基、アルキルチオ基またはアルコキシ基を表すか、あるいはR³およびR⁴は互いに直接もしくはヘテロ原子を介して結合し、含窒素環を形成してもよい。)または $-\text{COYR}^5$ で表

わされる基¹ただし、R¹はアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アラルキル基またはアリール基、Yは酸素または硫黄を表わす。1、Xは水素、アルキル基またはハロゲンを表わす。ただしRとXは互いに結合してアルキレン基を形成してもよく、またR、R¹、R²、R³、R⁴またはR⁵で表わされる各炭化水素基上にはアルキル基、アルコキシ基、水酸基、ニトロ基、シノ²基およびハロゲンから選ばれた1種以上の置換基が存在してもよい。2で示される化合物の1種以上を有効成分として含有する除草剤に関する。

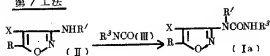
なお、上述の用語についてさらに説明を補足すれば、アルキル基としてはメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、シクロプロピル、シクロヘキシルなどが、アリール基としてはフェニル、トリル、メトキシフェニル、ハロゲンフェニルなどが、アルケニル基としてはビニル、アリル、ブテニル、ブタジエニル、シクロヘキセニルなどが、アルキニル基としてはエチニル、プロピニル、ブチニルなどが、アラルキル基として

はベンジル、フェネチル、クロロベンジルなどが、アルキレン基としてはテトラメチレン、ペンタメチレン、ヘキサメチレンなどが、アルコキシ基としてはメトキシ、エトキシ、プロポキシなどが、アルキルチオ基としてはメチルチオ、エチルチオ、プロピルチオなどが、アシル基としてはホルミル、アセチル、プロピオニル、ブチリル、イソブチリル、ピバロイル、アクリロイル、メタクリロイル、クロトニル、ベンゾイル、トルオイル、ナフトイル、シンナモイル、フロイル、テノイル、ニコチノイル、シクロヘキサンカルボニルなどが、ハロゲンとしては塩素、臭素、ヨウ素などが、それぞれ例示されるが、本発明の目的の上からは上記具体例のみに限定されるものではない。

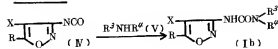
本発明者らは各種イソオキサゾール誘導体の除草作用について詳細な研究を行なった結果、前記イソオキサゾール化合物(I)が優れた除草効果を有するとともに人畜魚類などには極めて毒性が低く、しかも土壌中における変性分解能が適度であることを見出し、本発明を完成した。

本発明にかかるイソオキサゾール化合物(I)は9種の化合物Ia、Ib、Ic、Id、Ie、If、Ig、IhおよびIiを包含し、それぞれ下記の反応式で示されるように合成することができる。

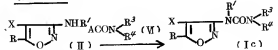
第1工法



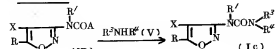
第2工法



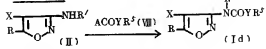
第3工法



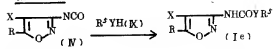
第4工法



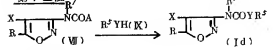
第5工法



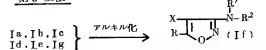
第6工法



第7工法

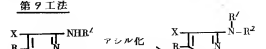


第8工法

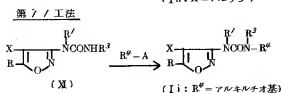
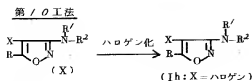


Ia, Ib, Ic }
Id, Ie, Ig }
(ただし少くとも1個のN位水素を有する)

第9工法



(Ig: R²=アシル基)



(式中、Aは反応性残基(例えば、ハロゲン、エステル残基)を表わし、R, R', R², R³, R⁴, XおよびYは前記と同意義を有する。)

以下に各工法についての具体的な合成例を示す。

合成例1

3-アミノ-5-メ-ブチルイソキサゾール1,6,8,2,8を無水ベンゼン140mlに溶解し、これにかきまぜながらイソシアナートメチルエステル890.8およびトリエチルアミン0.5mlを加え、混合物を室温下で約5時間かきまぜ、一夜放置し、次に1時間加熱還流させる。冷却後、反応液より析出した結晶を濾取し、それを酢酸エチルより再結晶し、融点187.0~187.5℃の無色針状結晶として1-メチル-3-(5-メ-ブチル-3-イソキサゾリル)尿素2.1618を得る。

合成例2~65

下記の原料物質(II)を使用し、合成例1と同様に反応を行い、対応する目的物質(Ia)を得る:

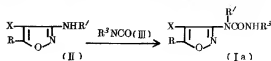


表1

合成例	II				目的物質(Ia)
	R	X	R'	R ³	
2	H	H	H	Me	165.5-166.0
3	Me	H	H	Me	214.0-215.0
4	Et	H	H	Me	157.5-159.0
5	Pr	H	H	Me	155.0-156.0
6	i-Pr	H	H	Me	112.0-113.0
7	C-Pr	H	H	Me	157.0-158.0
8	Ph	H	H	Me	195.5-196.0

9	-(CH ₂) ₆	H	Me	193.0-194.0
10	Me	H	Et	133.0-134.5
11	i-Pr	H	Et	122.5-123.5
12	t-Bu	H	Et	179.0-180.5
13	Me	H	Pr	95.0-96.7
14	i-Pr	H	Pr	88.5-89.5
15	t-Bu	H	Pr	134.0-135.0
16	Me	H	i-Pr	118.0-119.0
17	i-Pr	H	i-Pr	115.0-116.0
18	t-Bu	H	i-Pr	134.0-135.0
19	Me	H	Bu	89.5-90.5
20	i-Pr	H	Bu	71.0-72.0
21	t-Bu	H	Bu	69.5-71.5
22	Me	H	Al	110.0-111.0
23	i-Pr	H	Al	81.5-82.5
24	t-Bu	H	Al	130.0-131.0
25	Me	H	C-Hc	164.0-165.0
26	i-Pr	H	C-Hc	161.5-163.5
27	t-Bu	H	C-Hc	193.5-195.0
28	H	H	Ph	187.0-188.5
29	Me	H	Ph	188.0-189.0
30	Et	H	Ph	157.0-158.5
31	Pr	H	Ph	160.0-161.0
32	i-Pr	H	Ph	178.0-179.0

33	t-Bu	H	Ph	198.5-199.5
34	C-Pr	H	Ph	158.5-160.0
35	Ph	H	Ph	210.5-211.5(d)
36	-(CH ₂) ₆	H	Ph	187.0-188.0
37	Me	H	m-Tol	169.5-170.0
38	i-Pr	H	m-Tol	164.5-166.0
39	t-Bu	H	m-Tol	188.5-190.0(d)
40	Me	H	p-C ₆ H ₄	205.5-207.0(d)
41	i-Pr	H	p-C ₆ H ₄	174.0-175.0
42	t-Bu	H	p-C ₆ H ₄	188.5-190.0(d)
43	Me	H	p-Br-Ph	201.5-203.0(d)
44	i-Pr	H	p-Br-Ph	176.0-177.0(d)
45	t-Bu	H	p-Br-Ph	192.5(d)
46	H	H	Me	63.0-64.0
47	Me	H	Me	77.0-78.0
48	Et	H	Me	74.0-75.0
49	Pr	H	Me	45.0-46.0
50	i-Pr	H	Me	77.5-78.5
51	C-Pr	H	Me	67.0-68.0
52	t-Bu	H	Me	150.0-151.0
53	Ph	H	Me	132.0-133.0
54	-(CH ₂) ₆	Me	Me	82.5-83.5
55	t-Bu	H	Me	128.5-129.5

56	t-Bu	C ₆ H ₅	Me	Me	1550-1560
57	Me	H	Et	Me	370-380
58	t-Bu	H	Me	Bu	1690, 1607 cm^{-1} (CCl ₄)
59	i-Bu	H	H	Me	1485-1495
60	i-Bu	H	Me	Me	123-125°C/0.65mmHg
61	i-Bu	H	Me	Al	139-141°C/0.65mmHg
62	t-Bu	H	Me	Al	126-128°C/0.55mmHg
63	t-Bu	H	Et	Me	1065-1075
64	t-Bu	H	Me	Et	1683, 1603 cm^{-1} (CCl ₄)
65	t-Bu	Br	H	Me	1605-1610

注) 上記表中の略号は下記の意味を有する:

H (水素), Me (メチル基), Et (エチル基),
Pr (プロピル基), Bu (ブチル基), Ph (フェニル基), Al (アリル基), Ho (ヘキシル基),
ToI (トリル基), C- (シクロ-), i- (イソ-), t- (ターシャリー), m- (メタ-),
p- (パラ-), d (分解点), mp (融点, °C),
bp (沸点), I, R₁ (赤外線吸収スペクトル)。

合成例 6

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール1749をベンゼン20mlに懸濁し、室温下にかきまぜながらこれにクロロ炭酸イソプロピルエ

ステル2069を5~10分間かけて滴下する。水冷下ピリジン1229を加え、30分間かきまぜたのち、全体を室温下一夜放置する。冷後、反応液に水20mlを加え、ベンゼン10mlで抽出する。水層をさらにベンゼン20mlで抽出し、ベンゼン抽出液を合体させる。このベンゼン溶液は水20mlで3回洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥したのち、ベンゼンを留去する。得られる淡褐色粗結晶2979をヘキサンより再結晶し、融点64.5~65.5°Cの微黄色プリズム晶としてN-(5-シクロプロピル-3-イソオキサゾール)カルバミン酸メチルエステルを得る。収率92.9%。

合成例 67-83

下記の原料物質(II)を使用し、合成例6と同様に反応を行い、対応する目的物質(Id)を得る:

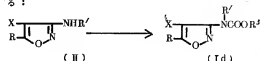


表 2

合成例No.	II				目的物質 (Id)
	R	X	R'	R ²	
67	Me	H	H	Me	1360-1370
68	Et	H	H	Me	830-840
69	Pr	H	H	Me	660-670
70	i-Pr	H	H	Me	740-750
71	t-Bu	H	H	Me	575-585
72	H	H	H	i-Pr	875-890
73	Me	H	H	i-Pr	820-825
74	i-Pr	H	H	i-Pr	560-580
75	t-Bu	H	H	i-Pr	830-835
76	Ph	H	H	i-Pr	1035-1045
77	-(CH ₂) ₄ -	H	H	i-Pr	1290-1300
78	C-Pr	H	H	Me	1015-1025
79	Me	H	Me	Me	85-95°C (溶点) / 0.85mmHg
80	i-Bu	H	H	Me	760-770
81	t-Bu	H	H	Et	510-520
82	H	H	H	Me	124-125
83	t-Bu	H	H	Me	840-870°C/0.55mmHg

注) 表中の略号は前記と同意義を有する。

合成例 84

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール19629にピロ炭酸ジメチルエステル28169を室温下にかきまぜながら滴下すると、原料結晶は溶解しつつ溶解する。全体を微加温すると発熱して反応する。反応液を2時間放置し、冷時析出した結晶を濾取し、メタノール15mlで洗浄し、粗結晶17319を得る。母液と洗液を合わせて減圧濃縮し、得られる二番結晶を水40mlで洗浄し、追加の粗結晶1569が得られる。両粗結晶を合わせ、メタノール44mlより再結晶し、融点1360~1370°Cの精制化結晶としてN-(5-メチル-3-イソオキサゾール)カルバミン酸メチルエステル14709を得る。

合成例 85

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール2809にピロ炭酸ジメチルエステル40299を加え、室温下に1時間40分をかきまぜ、次いで65°Cにて3時間をかきまぜる。さらにピロ炭酸ジメチルエステル1349を加え、65°Cにて1時間

かきまぜる。反応液を室温まで冷却し、一夜放置する。これを減圧濃縮し、析出する結晶4.02gをヘキサンより再結晶し、融点5.55～5.85℃の結晶としてN-(5-メチル-3-イソオキサゾール)カルバミン酸メチルエステルを得る。

合成例86

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール049gに炭酸シメチルエステル2.38gおよびナトリウムメトキシド0.30gを加え、100℃で3時間かきまぜる。冷後、反応液に水15mlを加え、少量の濃塩酸で全体を調1とし、酢酸エチルで2回抽出する。酢酸エチル層は水洗し、無水芒硝で

ろ過させ、これにN-メチルブチルアミン1.15gを加え、3時間運流させる。冷後、反応液から溶媒を留去し、残渣をシリカゲルの薄層クロマトグラフに付し、1-ブチル-1-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾール)尿素2.73gを得る。本品はヘキサンより再結晶し、融点6.55～6.65℃の結晶を得る。収率89.8%。

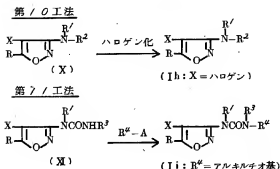
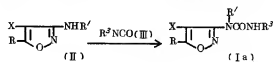
合成例87-157

下記の原料物質(N)を使用し、合成例87と同様に反応を行い、対応する目的物質(Ih)を得る：

り析出した結晶を回収し、それを酢酸エチルより再結晶し、融点187.0～187.5℃の無色針状晶として1-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾール)尿素2.16gを得る。

合成例2～65

下記の原料物質(II)を使用し、合成例1と同様に反応を行い、対応する目的物質(Ia)を得る：



(式中、Aは反応性残基(例えば、ハロゲン、エステル残基)を表わし、R, R¹, R², R³, R⁴, R⁵, XおよびYは前記と同意義を有する。)

以下に各工法についての具体的な合成例を示す。
合成例1

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール1.682gを無水ベンゼン140mlに溶解し、これにかきまぜながらイソシアナートメチルエステル890gおよびトリエチルアミン0.5mlを加え、混合物を室温下で約8時間かきまぜ、一夜放置し、次いで7時間加熱運流させる。氷冷後、反応液を

表1

合成例	II			III	目的物質(Ia)
	R	X	R ¹	R ²	
2	H	H	H	Me	1655-1660
3	Me	H	H	Me	2140-2150
4	Et	H	H	Me	1575-1590
5	Pr	H	H	Me	1550-1560
6	i-Pr	H	H	Me	1120-1130
7	C-Pr	H	H	Me	1570-1580
8	Ph	H	H	Me	1955-1960

9	-(CH ₂) ₆ -	H	Me	1930-1940
10	Me	H	Et	1330-1345
11	i-Pr	H	Et	1225-1235
12	t-Bu	H	Et	1790-1805
13	Me	H	Pr	950-967
14	i-Pr	H	Pr	885-895
15	t-Bu	H	Pr	1340-1350
16	Me	H	i-Pr	1180-1190
17	i-Pr	H	i-Pr	1150-1160

33	t-Bu	H	Ph	1985-1995
34	C-Pr	H	Ph	1585-1600
35	Ph	H	Ph	2105-2115(4)
36	-(CH ₂) ₆ -	H	Ph	1870-1880
37	Me	H	m-Tol	1625-1700
38	i-Pr	H	m-Tol	1645-1660
39	t-Bu	H	m-Tol	1885-1900(4)
40	Me	H	p-C ₆ H ₄	2055-2070(4)
41	i-Pr	H	p-C ₆ H ₄	1740-1750

131	i-Bu	H	Me	Al	25.5-27.0
132	i-Bu	H	Me	Me t	8.20-8.30
133	i-Bu	H	$-(CH_2)_2(CH_2)_2$		10.95-11.05
134	t-Bu	H	H	s-Bu	13.25-13.40
135	t-Bu	H	H	i-Bu	12.15-12.20
136	t-Bu	H	H	t-Bu	18.05-18.35
137	t-Bu	H	H	3,4-Cl ₂ -Ph	22.65-22.70
138	t-Bu	H	H	Bz	13.65-13.75
139	t-Bu	H	H	α -Me-Bz	11.80-11.90
140	t-Bu	H	Me	Pr	7.60-7.70
141	t-Bu	H	Me	i-Pr	9.05-9.15
142	t-Bu	H	Me	s-Bu	11.35-11.45
143	t-Bu	H	Me	i-Bu	11.35-11.45
144	t-Bu	H	Me	t-Bu	14.90-15.10
145	t-Bu	H	Me	He	16.79, 16.50 ^m (CCl ₄)
146	t-Bu	H	Me	α -Me-Bz	12.10-12.20
147	C-Pr	H	Me	Me	14.50-14.60
148	C-Pr	H	Me	Me t	7.75-7.85
149	Ph	H	Me	Me	18.30-18.50
150	Ph	H	Me	Me t	12.80-12.90
151	$-(CH_2)_6$	Me	Me		16.45-16.55
152	$-(CH_2)_6$	Me	Me t		11.15-11.20
153	t-Bu	H	$-(CH_2)_6$		13.20-13.75

154	t-Bu	H	$-(CH_2)_3$	11.40-11.50
155	t-Bu	H	$-(CH_2)_2(CH_2)_2$	17.90-18.00

注)表中の略号は下記の意義を有する:

Me t (メトキシ基), Bz (ベンジル基),
s- (セカンダリ), その他は前記と同意義を有する。

合成例 156-166

イソフタル酸 5-メチル-3-イソオキサゾリルエステル (718) をベンゼン 46 ml に懸濁させこれにアリルアルコール 0.88 g を加え、3 時間還流させる。冷後、反応液から溶媒を留去し、N-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)カルバミン酸アリルエステル 2.38 g を得る。本品をシクロヘキサンより再結晶すると融点 76.5~77.5°C の結晶を得る。

下記の原料物質 (N) を使用し、上記と同様に反応を行い、対応する目的物質 (Ie) を得る:

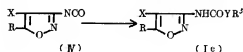


表 4

合成例	R	X	Y	R ²	mp, bp または I. R.
157	t-Bu	H	O	$-CH_2C\equiv CH$	12.65-12.75
158	t-Bu	H	S	Me	11.55-11.65
159	t-Bu	H	S	Ph	15.40-15.50
160	t-Bu	H	O	$-CH_2CCl_2$	15.15-15.25
161	t-Bu	H	O	$-CH_2CH=CH_2$	6.40-6.50
162	t-Bu	H	O	Pr	8.75-8.85
163	t-Bu	H	O	$-CH_2CH_2OH$	17.40, 16.11 ^m (CCl ₄)
164	t-Bu	H	O	$-CH_2CH_2OCH_3$	4.9-5.1
165	t-Bu	H	O	α, α -Me ₂ -Bz	12.60-12.80
166	t-Bu	H	O	$-CH_2CF_3$	12.50-12.60

注)略号は前記と同意義を有する。

合成例 167

無水メタノール 4.5 ml にナトリウム 1.57 g を加えてナトリウムメトキドとし、N-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)カルバミン酸メチルエステル 1.28 g を加え、室温下 10 分間かき混ぜたのち、メタノールを減圧留去する。残液に無水ベンゼン 100 ml を加え、硫酸ジメチ

ル 6.1 g を滴下し、1 時間かき混ぜたのち、さらに 1 時間還流する。冷後、不溶物を濾去し、ベンゼン溶液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で順次洗滌し、無水芒硝上で乾燥し、溶媒を留去する。残渣を蒸留し、沸点 84.0~87.0°C / 0.55 mmHg の留出物として N-メチル-N-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)カルバミン酸メチルエステル 1.45 g を得る。

(以下余白)

合成例 168-170

合成例 167と同様に反応を行い、下記の目的物質を得る：

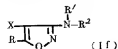


表5

合成例系	目的物質 (1f)	mp, bpまたはIR
168	C-Pr H Me -COOCH ₃	96-97.5°C/0.5mmHg
169	i-Bu H Me -COOCH ₃	98-100°C/0.42mmHg
170	Me Cl Me -COCH ₃	82.8°C(浴温)/0.35mmHg

注) 略号は前記と同意義を有する。

合成例 171

1-ジメチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素/0.99gを乾燥したジメチルホルムアミド10mlに溶解し、室温下にかきまぜつつ50%水酸化ナトリウム2.75gを加え、60°Cで15分間加熱する。10°Cに冷却しヨウ化メチル8.86gを乾燥したジメチルホルムアミド30mlに溶かした溶液を加え、1時間で滴

下し、80°Cで5分間加熱し、溶液を留去する。

残渣に水150mlを加え、クロロホルムで抽出する。クロロホルム層を無水硫酸で乾燥し、溶液を留去し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーに付し、融点90~91.0°Cの結晶として1,3-トリメチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素/0.94gを得る。収率93.38%。

合成例 172-178

合成例 171と同様に反応を行い、下記の目的物質(1f)を得る：

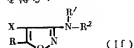


表6

合成例系	目的物質	mp, bpまたはIR
172	Me H Me -CON(CH ₃) ₂	105-108°C(浴温)/0.48mmHg
173	Et H Me -CON(CH ₃) ₂	113-114°C/0.86mmHg
174	Pr H Me -CON(CH ₃) ₂	115-116°C/0.60mmHg
175	i-Pr H Me -CON(CH ₃) ₂	106-107°C/0.30mmHg
176	i-Bu H Me -CON(CH ₃) ₂	230-240°C/0.54mmHg

177	C-Pr H Me -CON(CH ₃) ₂	130-131.0°C/0.58mmHg
178	Ph H Me -CON(CH ₃) ₂	168/166.2°C (CCl ₄)

注) 略号は前記と同意義を有する。

合成例 179

合成例 171と同様に反応処理し、1-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素から融点77.0~78.0°Cの結晶として1,3-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素21%および融点46.0~47.0°Cの結晶として1-メチル-1-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素45.5%を得る。さらに融点55.0~56.0°Cの結晶として3-メチルアミノ-5-メチルイソオキサゾール17.7%を副生する。

合成例 180

合成例 171と同様に反応処理し、1-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素から、融点90.0~91.0°Cの結晶として1,1,3-トリメチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素5.61%、融点15.00~15.10

°Cの結晶として1,3-ジメチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素を72.4%収率で、さらに融点13.40~13.50°Cの結晶として1-メチル-1-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素を46.97%収率で得る。他に沸点83°C/0.71mmHg部分の留出物として3-メチルアミノ-5-ヒプテールイソオキサゾール14.30%相当を副生する。

合成例 181

合成例 171と同様に反応処理し、1-メチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素から融点15.0~15.10°Cの結晶として1,3-ジメチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素を収率16.3%相当で、さらに融点90.0~91.0°Cの結晶として1,1,3-トリメチル-3-(5-ヒプテール-3-イソオキサゾリル)尿素を33.9%収率で得る。

合成例 182

1-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を使用し、合成例 167と同様に

反応を行い、融点 $146\sim 147^{\circ}\text{C}$ の結晶として、1,3-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。収率58.3%。

合成例183

1-メチル-1-ブチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素とヨウ化メチルを使用し、合成例171と同様に反応を行い、沸点 $130\sim 135^{\circ}\text{C}$ (浴温) $/0.25\text{mmHg}$ の油状物として、1,3-ジメチル-1-ブチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

合成例184

1-メチル-1-ブチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素とヨウ化エチルを使用し、合成例171と同様に反応を行い、沸点 $130\sim 135^{\circ}\text{C}$ (浴温) $/0.25\text{mmHg}$ の油状物として、1-メチル-1-ブチル-3-エチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

合成例185

として、1-ジメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素 0.4735g を得る。収率56%。

合成例187

3-メチルアミノ-5-メチルイソオキサゾールを使用し、合成例186と同様に反応を行い、融点 $90\sim 91.0^{\circ}\text{C}$ の結晶として、1,3-トリメチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

合成例188

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール 10.0g に99%酢酸 47.0g を加え、かきまぜながら1時間還流させる。反応液から酢酸を減圧留去し、残渣に水 50ml を加え、析出した結晶を濾取する。この結晶を水洗し、乾圧乾燥し、3-ホルミルアミノ-5-メチルイソオキサゾール 12.06g を得る。本品をメタノールより再結晶し、融点 $130.5\sim 131.0^{\circ}\text{C}$ の結晶を得る。

合成例189-197

下記の原料物質(II)を使用し、合成例188と同様に反応を行い、対応する目的物質(Ig)を得る。

1-エチル-1-ブチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素とヨウ化メチルを使用し、合成例171と同様に反応を行い、沸点 $140\sim 145^{\circ}\text{C}$ (浴温) $/0.67\text{mmHg}$ の油状物として、1-エチル-1-ブチル-3-メチル-3-(5-メチル-3-イソオキサゾリル)尿素を得る。

合成例186

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール 49.06g にピリジン 3g と塩化ジメチルカルバモイル 11.8g を加え、 60°C にて5時間かきまぜる。ピリジンを減圧下に留去し、残渣に水 15ml と5%塩酸を加えてpHとし、クロロホルムで抽出する。クロロホルム抽出液よりクロロホルムを留去し、残渣に1.5%メタノール性水酸化ナトリウム液 2.5ml を加え、溶液を留去する。残渣をクロロホルムで再抽出し、クロロホルム層は水洗し、芒硝で乾燥したのクロロホルムを留去する。残渣をシリカゲルの薄層クロマトグラフィーにて精製し、融点 $150.5\sim 151.5^{\circ}\text{C}$ の結晶

同様に反応を行い、対応する目的物質(Ig)を得る。



表6

合成例	R	X	目的物質(Ig)
189	H	H	mp, bpまたはI, R ₁
190	Me	H	104-105
191	Et	H	130.5-131.0
192	Pr	H	67-69
193	i-Pr	H	84.5-85.5
194	t-Bu	H	125-134°C(浴温)/04-04.2mmHg
195	C-Pr	H	130-140°C(浴温)/073-074mmHg
196	Ph	H	72.3-73.3
197	(CH ₂) ₆	H	132-133
			152-166°C(浴温)/0.69-0.65mmHg

注) 略号は前記と同意義を有する。

合成例198

3-アミノ-5-メチルイソオキサゾール 2.80g に無水酢酸 6ml を加え、室温に4時間放置する。反応液に冷水 50ml を加え、析出した結

品を回収する。この結晶を水洗し、乾燥し、3-アセチルアミノ-5-メープチルイソキサゾール3399を得る。本品をヘキサンより再結晶し、融点120.5~121.0℃の結晶を得る。

合成例199-203

下記の原料物質(II)を使用し、合成例198と同様に反応を行い、対応する目的物質(IG)を得る：

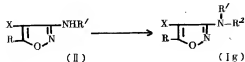


表7

合成例	II			目的物質(IG)	
	R	X	R'	R ²	mp, bpまたはIR
199	Me	H	Me	-COCH ₃	88-92℃/0.95mmHg
200	t-Bu	H	H	-COCF ₃	145.0-145.5
201	t-Bu	H	H	-COCF ₂ CF ₃	103.0-104.0
202	t-Bu	H	Me	-COC ₂ H ₅	111-116℃(浴温)/0.45mmHg
203	Me	Cl	H	-COCH ₃	122.0-122.5

注) 略号は前記と同意義を有する。

合成例204

3-アミノ-5-メープチルイソキサゾールをベンゼンに溶解し、これに塩化ベンゾイルとピリジンを加えて反応せしめ、融点192~193℃の結晶として3-ベンゾイルアミノ-5-メープチルイソキサゾールを得る。

合成例205-208

下記の原料物質(II)を使用し、合成例204と同様に反応を行い、対応する目的物質(IG)を得る：

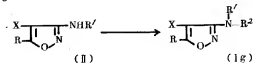


表8

合成例	II			目的物質(IG)	
	R	X	R'	R ²	mp, bpまたはIR
205	t-Bu	H	H	-COCH ₂ Cl	105.5-106.5
206	t-Bu	H	H	-COCHCl ₂	124.0-125.0
207	t-Bu	H	H	-CO-t-Bu	174.5-175.5
208	t-Bu	H	i-Pr	-COCH ₂ Cl	168.6, 158.5cm ⁻¹ (CCl ₄)

注) 略号は前記と同意義を有する。

合成例209

1-メチル-3-(5-メープチル-3-イソキサゾリル)尿素1979をピリジン30mlに溶解し、-30~-40℃に冷却下塩化ブチルスルホン135gを加える。混合物を-30~-40℃で6時間、さらに室温で一夜放置する。反応液を常法により処理したのちシリカゲルを使用してカラムクロマトグラフィーに付し、油状物として1-メチル-1-ブチルチオ-3-(5-メープチル-3-イソキサゾリル)尿素の0.31gを得る。IR, 1698, 1606cm⁻¹(CCl₄)。

合成例210

1-メチル-3-(5-メチル-3-イソキサゾリル)尿素を使用し、合成例209と同様に反応を行い、油状物として1-メチル-1-ブチルチオ-3-(5-メチル-3-イソキサゾリル)尿素を得る。IR, 1693, 1618cm⁻¹(CCl₄)。

合成例211

5-メープチル-3-イソキサゾリルカルバ

ミン酸メチルエステル2008と無水酢酸ナトリウム0.91gを水酢酸5mlに溶解した溶液に臭素20.0gを加える。これを70℃にて3/時間攪拌し、蟻酸数滴を加え、水50mlに注加し、塩化メチレンにて抽出する。有機層を炭酸水素ナトリウムの飽和水溶液と水で順次洗浄し、減圧濃縮して溶媒を留去する。油状物として4-プロモ-5-メープチル-3-イソキサゾリルカルバミン酸メチルエステル2779を得る。IR, 1774, 1203cm⁻¹(CCl₄)。

合成例212

1-ジメチル-3-(5-メープチル-3-イソキサゾリル)尿素を使用し、合成例211と同様に反応を行い、融点164.5~165.5℃の結晶として1-ジメチル-3-(4-プロモ-5-メープチル-3-イソキサゾリル)尿素を得る。

合成例213

イソシアン酸3-イソキサゾリルエステルを使用し、合成例87と同様に反応を行い、油状物

として1-メチル-3-イソオキサゾール-3-イソオキサゾール)尿素を得る。I.R./717, 1595 cm⁻¹(CCl₄)。

合成例 2/4

1-1-ジメチル-3-(4,5,6-アテトラヒドロ-1,2-ベンズイソオキサゾール-3-イル)尿素を使用し、合成例1/7と同様に反応を行い、沸点138.0~139.0℃/0.5 mmHgの油状物として1,1,3-トリメチル-3-(4,5,6-アテトラヒドロ-1,2-ベンズイソオキサゾール-3-イル)尿素を得る。

これらイソオキサゾール化合物(1)は各種雑草に対して少量の使用量にて優れた除草活性を示すが、使用濃度を変更し非選択性除草剤として、また選択性除草剤として使用してもよい。本発明にかかる除草剤が一般的に使用できる対象作物としては、小麦、大麦、トウモロコシ、ニンジン、サツカセイ、豆類、水稲などが例示される。また特に作物収穫後に使用できる場合としては、サトウキビ、バレイショ、カンショ、ハツカ、ナス、ビ

ーマンなどが例示される。これらの作物に対する本発明の除草剤による被害はほとんど皆無であるか、極めて軽微であつて容易に回復できる程度である。また人や家畜類には無害安全であり、さらに魚貝類に対する毒性も極めて低い。従つて本発明の除草剤は極めて安全性が高く、土壌中残留性も適当な薬剤群である。

本発明のイソオキサゾール化合物(1)は、N位活性水素が存在しているときには製剤化あるいは安定性の向上などの必要性如何により、その適当なアルカリ金属塩またはアルカリ土類金属塩として使用してもよい。

本発明にかかる除草剤は、有効成分としての上記化合物(1)に適当な固體または液體の不活性担体を混合して使用されるが、必要によりさらに補助剤(例えば、乳化剤、安定剤、分散剤、懸濁剤、展着剤、浸透剤、湿膜剤)を添加して、所望の剤型(例えば、乳剤、水和剤、顆粒剤、粉剤、粒剤)に調製して使用すればよい。担体としては、クレイ、タルク、けい酸土、ベントナイトなどの無

形担体、水、アルコール類、アセトン、ベンゼン、トルエン、キシレン、ソルベントナフサ、シクロヘキサンなどの液状担体が挙げられる。

なお本発明の除草剤は殺虫剤、殺菌剤、他の除草剤などの農薬、硫酸、尿素などの肥効成分、あるいは土壌処理剤などと混合して使用することもできる。

以下に試験例を挙げて本発明の除草剤についてその除草活性を示す。

試験例 1

a) 供試化合物

- | 化合物名 | 化合物名 |
|-----------------------------------|------|
| 1 1-メチル-3-(5-エチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 2 1-メチル-3-(5-イソプロピル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 3 1-メチル-3-(5-イソブチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 4 1-メチル-3-(5-メープチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |

- | | |
|--|--|
| 5 1-メチル-3-(5-シクロプロピル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 6 N-(5-イソブチル-3-イソオキサゾール)カルバミン酸メチルエステル | |
| 7 N-(5-メープチル-3-イソオキサゾール)カルバミン酸メチルエステル | |
| 8 N-(5-シクロプロピル-3-イソオキサゾール)カルバミン酸メチルエステル | |
| 9 1-1-ジメチル-3-(5-メープチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 10 1,3-ジメチル-3-(5-メープチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 11 1,1,3-トリメチル-3-(5-メープチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |
| 12 1,3-ジメチル-3-(4-クロロ-5-メープチル-3-イソオキサゾール)尿素 | |

13 1-メチル-1-ブチル-3-(5-
 レブチル-3-イソオキサゾリル)
 尿素

14 1-エチル-3-(5-レブチル-
 3-イソオキサゾリル)尿素

15 1-ブチル-3-(5-レブチル-
 3-イソオキサゾリル)尿素

16 1-アリル-3-(5-レブチル-
 3-イソオキサゾリル)尿素

17 PCP-Na (ナトリウム・ペンタクロロ
 フェノキレド)

b) 試験方法

①発芽前処理試験

被験植物の種子25粒を直径2cmの砂炭土をつめたポリエチレンカップに種類別に播種した。播種後約5mmの厚さの覆土を行い、ただちに供試化合物の水性懸濁液(殺菌剤としてフイーン20の100ppm相当を使用)を土壌表面に散布した。供試化合物の使用量はアール当りで10gおよび30gとし、また散布液の希釈水量はアール当り

10gとし、クロマトスプレーで散布した。管理は25℃、自然日照の温室内で行った。薬剤処理後3週間目に発芽度を検定した。

②発芽後処理試験

被験植物の播種後10日目の幼植物に、発芽前処理試験と同様の方法で、供試化合物について処理を行った。管理および検定も上記の方法と同様に行った。

c) 評価方法

試験結果は、各処理後に肉眼観察を行なうとともに、3週間後における生存個体数によって生存率を算出し、次のような6段階評価を行って表示した。

被験植物の生存率10%以下	5
" 11~25%	4
" 26~50%	3
" 51~75%	2
" 76~90%	1
" 91%以上	0

(以下余白)

d) 結果

表6

化合物 No.		除 草 作 用											
		発芽前処理試験						発芽後処理試験					
		用量	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E
1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1
	30	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	2	
2	10	0	1	3	5	3	5	0	1	1	5	4	5
	30	0	3	4	5	3	5	0	4	4	5	5	5
3	10	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5	3	2
	30	0	0	0	3	1	0	0	0	0	5	4	4
4	10	0	2	5	4	5	5	0	5	5	5	5	5
	30	0	3	5	5	5	5	0	5	5	5	5	5
5	10	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5	4	5
	30	0	0	0	4	1	4	0	0	2	5	5	5
6	10	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5	1	0
	30	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5	1	0
7	10	0	0	2	4	3	2	0	0	3	5	5	3
	30	0	2	3	5	5	5	0	0	4	5	5	5

8	10	0	0	0	2	1	1	0	0	0	5	2	3
	30	0	0	2	5	3	3	0	0	0	5	4	5
9	10	1	5	4	5	5	5	0	5	5	5	5	5
	30	1	5	5	5	5	5	1	5	5	5	5	5
10	10	1	5	5	5	5	5	1	5	5	5	5	5
	30	1	5	5	5	5	5	1	5	5	5	5	5
11	10	0	2	4	5	5	3	0	4	5	5	5	5
	30	0	3	5	5	5	5	0	5	5	5	5	5
12	10	0	0	0	5	5	5	0	2	4	5	5	5
	30	0	1	2	5	5	5	0	1	4	5	5	5
13	10	0	3	4	5	5	5	0	5	5	5	5	5
	30	1	5	5	5	5	5	0	5	5	5	5	5
14	10	0	0	0	1	1	4	0	1	1	0	3	4
	30	0	1	2	4	3	5	0	1	3	1	3	5
15	10	0	0	0	3	1	5	0	1	1	5	0	5
	30	0	0	0	4	2	5	0	1	1	5	5	5
16	10	0	0	1	2	1	2	0	3	2	5	3	5
	30	0	4	2	5	1	4	0	2	3	5	5	4
17	10	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	2	5
	30	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	4	5
	50	0	2	2	0	5	5	0	0	4	2	5	5



注) 用量はg/aを単位とし、表中の記号は次の意義を有する：A、コムギ；B、イヌエビ；C、メヒシバ；D、ナクネ；E、イスタデ；F、アオビユ。

本発明の化合物（化合物系1〜16）はいずれもコムギに対する雑草作用はほとんどないが、イヌエビ、メヒシバ、ナクネ、イスタデまたはアオビユに対して優れた選択的殺草作用を示し、市販の除草剤であるPCP-Na（化合物系17）よりもはるかに強力である。

試験例 2

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素を懸濁液として用い、圃場条件における発芽後葉集処理を行ない殺草効果を調べた。使用量アールあたり10〜30gの範囲で次の雑草が除草できた。

タカサブロウ、ノボロギク、ツルソバ、ハコベ、ウシハコベ、ザクロソウ、スカシタゴボウ、シロザ、ミミナグサ、スベリヒユ、ヤエムグラ、スズメノテツボウ、コニシキソウ、キウリグサ、コゴ

メノカヤツリ、エノコログサ、ツメクサ、ノミノフスマ、カラスビシヤク、イヌガシラ、トキワハザ、ハハコグサ、ムフサキカタバミ、ジシバリ、ヨモギ、ヒルガオ、タンポポ、アザミ、フキ、ワラビ、スズメノトウガラシ、チヨウジタデ、ヒルムシロ、マツバイ。

試験例 3

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素の魚毒性を、市販のPCP-Naと対比して、ヒメダカについて検討したところ、極めて低いものであつた。

以下に本発明の除草剤の実施例を挙げる。

実施例 1

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素10重量部を微粉タルク90重量部と均一に混合し、粉剤とする。

実施例 2

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素20重量部、クレ-50重量部、タルク25重量部および湿展剤エマール（登



録商標：花王石鹼株式会社製）5重量部とを混合粉砕して水和剤とする。

実施例 3

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素20重量部をジメチルホルムアミド65重量部に溶解し、これにソルボール80（登録商標：東邦化学工業株式会社製）15重量部を加えて乳剤とする。

実施例 4

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素10重量部、ソルボール（登録商標：東邦化学工業株式会社製）10重量部、シクロヘキサノン20重量部およびソルベントナフサ40重量部を混合溶解して乳剤とする。

実施例 5

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素50重量部、リグニンスルホン酸カルシウム3重量部、ソルボール（登録商標：東邦化学工業株式会社製）3重量部および珪藻土44重量部を粉砕混合して水和剤とする。

実施例 6

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素5重量部およびクレ-95重量部を粉砕混合して粉剤とする。

実施例 7

1-メチル-3-（5-メープチル-3-イソオキサゾリル）尿素5重量部、リグニンスルホン酸カルシウム5重量部、ペントナイト30重量部およびクレ-60重量部を粉砕混合し、水を加えて練合し、造粒し、乾燥して粒剤を得る。

特許出願人 塩野義製薬株式会社

代理人 弁理士 岩崎 光隆

